

オープンソース / フリーソフトウェア開発者の 地域差に関する考察

2004年6月2日

株式会社三菱総合研究所

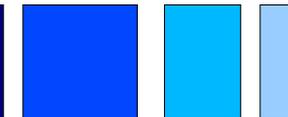
清水浩行・谷田部智之・飯尾淳・比屋根一雄

- 調査背景
- FLOSS 調査と FLOSS-JP/ASIA 調査
- 各地域の OSS/FS 開発者の特徴
 - プロフィール
 - OSS/FS やライセンスに対する考え方
 - OSS/FS 開発活動
 - 開発の動機・期待・きっかけ
 - 開発の対価
- おわりに

- Linuxをはじめとした FLOSS への注目
- FLOSS とは？
 - フリーソフトウェア
 - オープンソースソフトウェア
 - リブレソフトウェア
- 開発関係者の考え
 - 自分はこうだけど、みんなはどうなんだろう？
- 政府の考え
 - ソフトウェア業界を FLOSS で活性化できそう
 - 政府はどう関わればよいのか？
 - 開発関係者が重要らしいがどんな人なんだろう？
- 調査の必要性

- 2002 年 FLOSS 調査 (FLOSS-EU)
 - マーストリヒト大学 情報経済学国際研究所
 - ベルコン・リサーチ (独)
- 2003 年 FLOSS-US 調査
 - スタンフォード大学 経済政策研究所
- その他
 - WIDI (Who Is Doing It?)
 - ベルリン工科大学
 - ハッカー調査
 - ボストン・コンサルティンググループ / OSDN
- 回答者は欧米人がほとんど
 - 英語のアナウンス・アンケートが原因

- 日本（アジア）の開発者を調査したい！
 - FLOSS-JP/ASIA 調査の実施
 - FLOSS-EU/US 調査をベース
- 調査項目（JP:55 問、ASIA:58 問の選択式）
 - 開発者個人のプロフィール
 - オープンソースとフリーソフトウェア
 - OSS/FS に関する経歴
 - OSS/FS 開発活動
 - OSS/FS 開発の動機、期待、考え方
 - OSS/FS 開発の対価



- 調査期間

- FLOSS-JP: 2003/9/1 ~ 2003/11/1
- FLOSS-ASIA: 2003/12/1 ~ 2004/1/30
- 約2ヶ月間

- 回答者数

- FLOSS-JP: 547名 cf. FLOSS-EU: 2784名
- FLOSS-ASIA: 138名 FLOSS-US: 1588名
- 現地語版のアンケートを用意した4地域（韓国・タイ・台湾・中国）が約8割
- FLOSS-ASIA の回答者が少ない理由
 - アナウンス不足
 - 翻訳精度不足

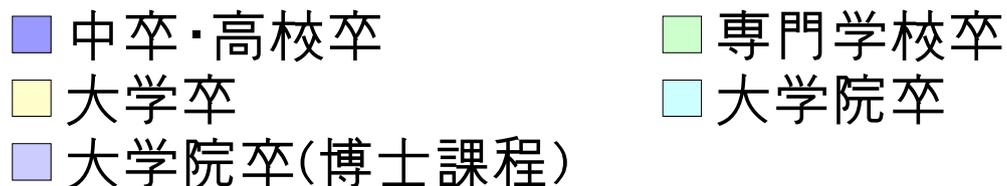
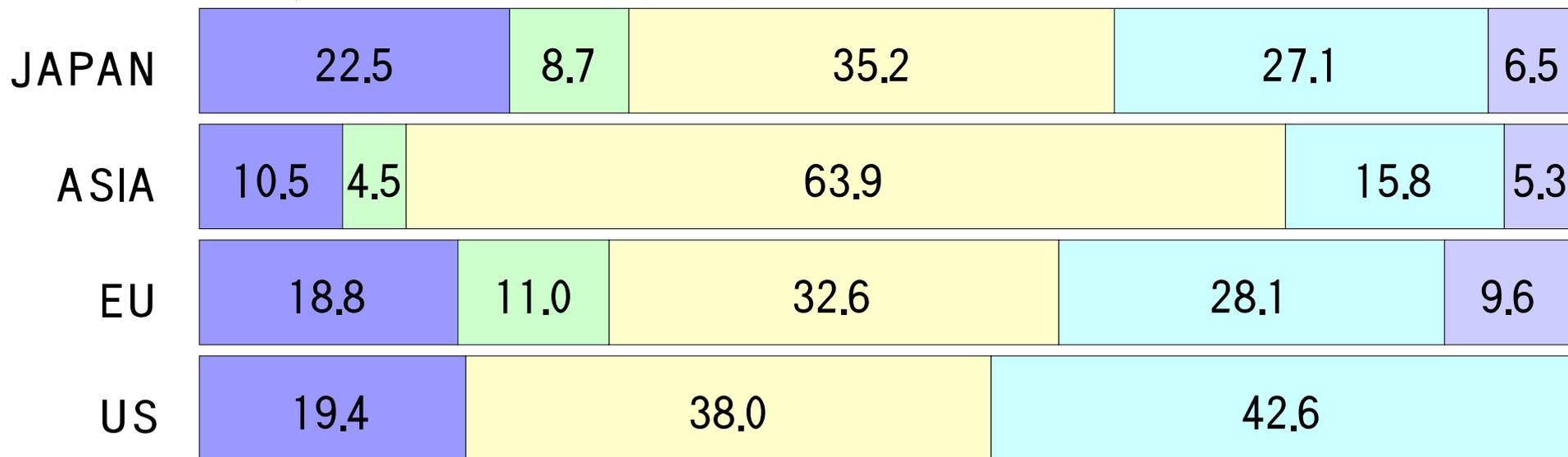
各地域のOSS/FS開発者の特徴

- FLOSS-EU/US/JP/ASIA の4調査を比較
 - 開発者の意識は全世界で同じなのか？
 - 地域差があるはず
- プロフィール
- 性別：4調査とも98%以上が男性
- 年齢：
 - 日本の平均年齢が高い
 - 欧米→日本→アジアの順に活発化

	日本		欧州		米国		アジア	
	平均	メディアン	平均	メディアン	平均	メディアン	平均	メディアン
開発参加年	1998.4	2000	1996.7	1998	1996.6	1999	1999.4	2000
参加年齢	26.6	26	22.9	22	-	22	24.3	23
現在の年齢	31.2	31	27.1	26	-	27	27.9	27

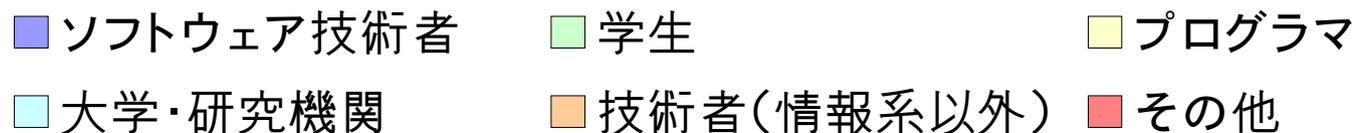
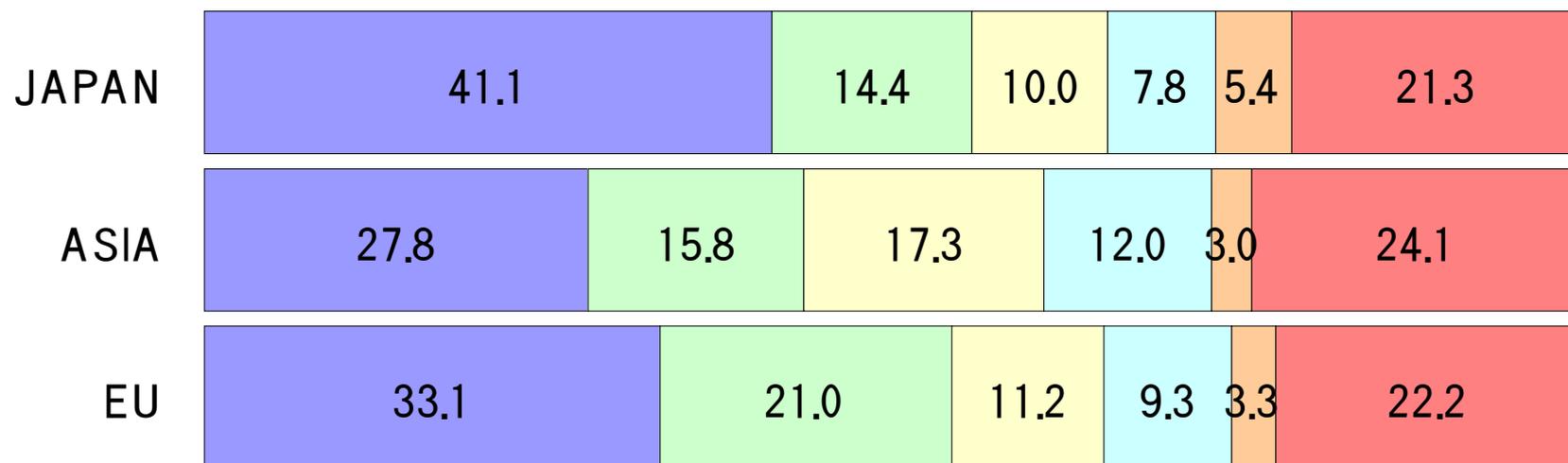
● 学歴：

- 日米欧では大学院卒が3割以上、
- アジアも大学卒以上が85%と高学歴
- 意欲があれば中高卒でも



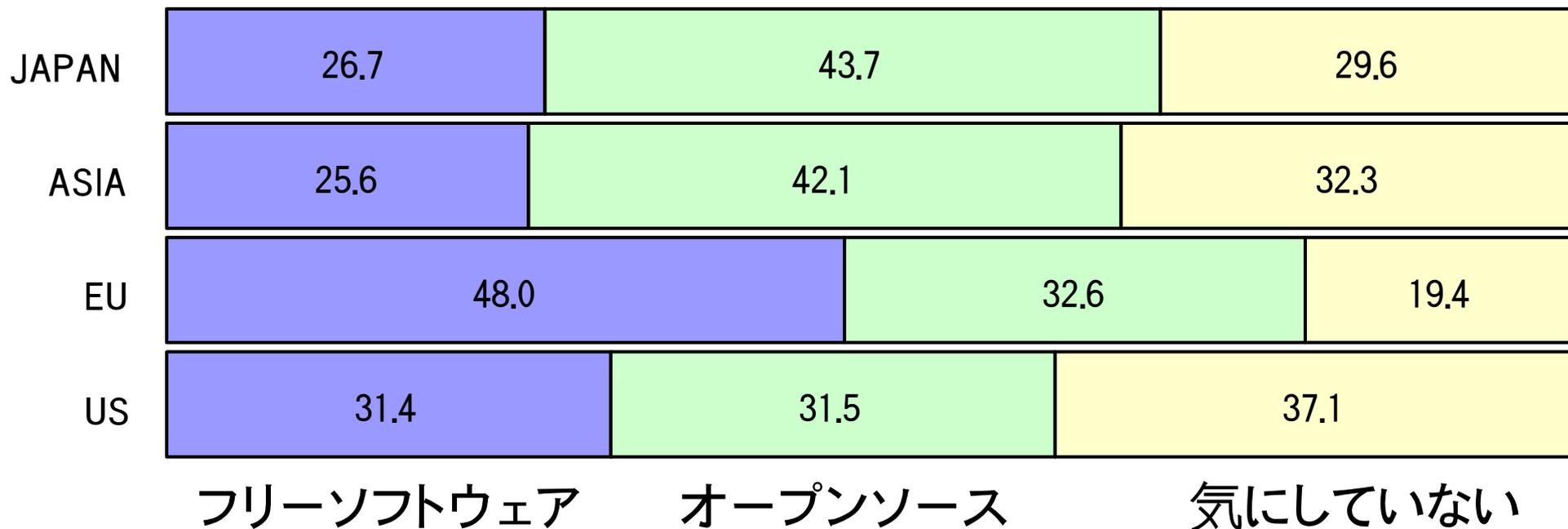
● 職業

- EUは学生の割合が高い
- 情報系の学生の割合は、
日本：6.5%、アジア：10.5%、EU：15.8%
- 日本の情報系教育はOSS/FS向きではない？



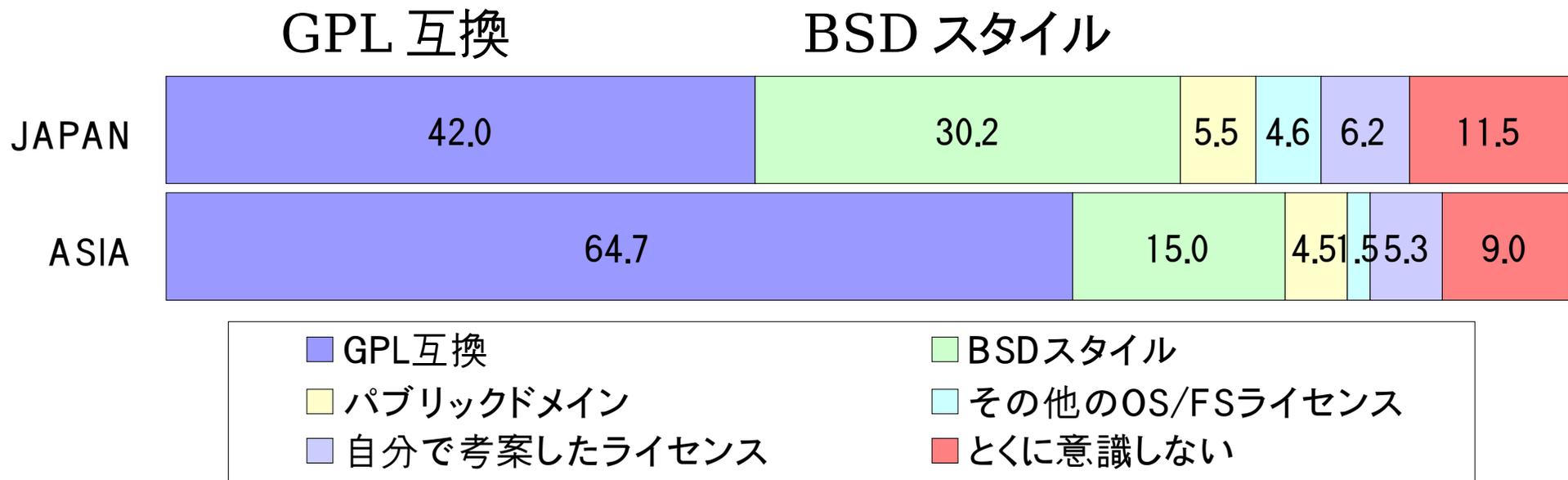
OSS/FS やライセンスに対する考え方

- オープンソースかフリーソフトか
 - 6～8割が立場を意識
 - EU：フリーソフト中心
 - 日本、アジア：オープンソース中心



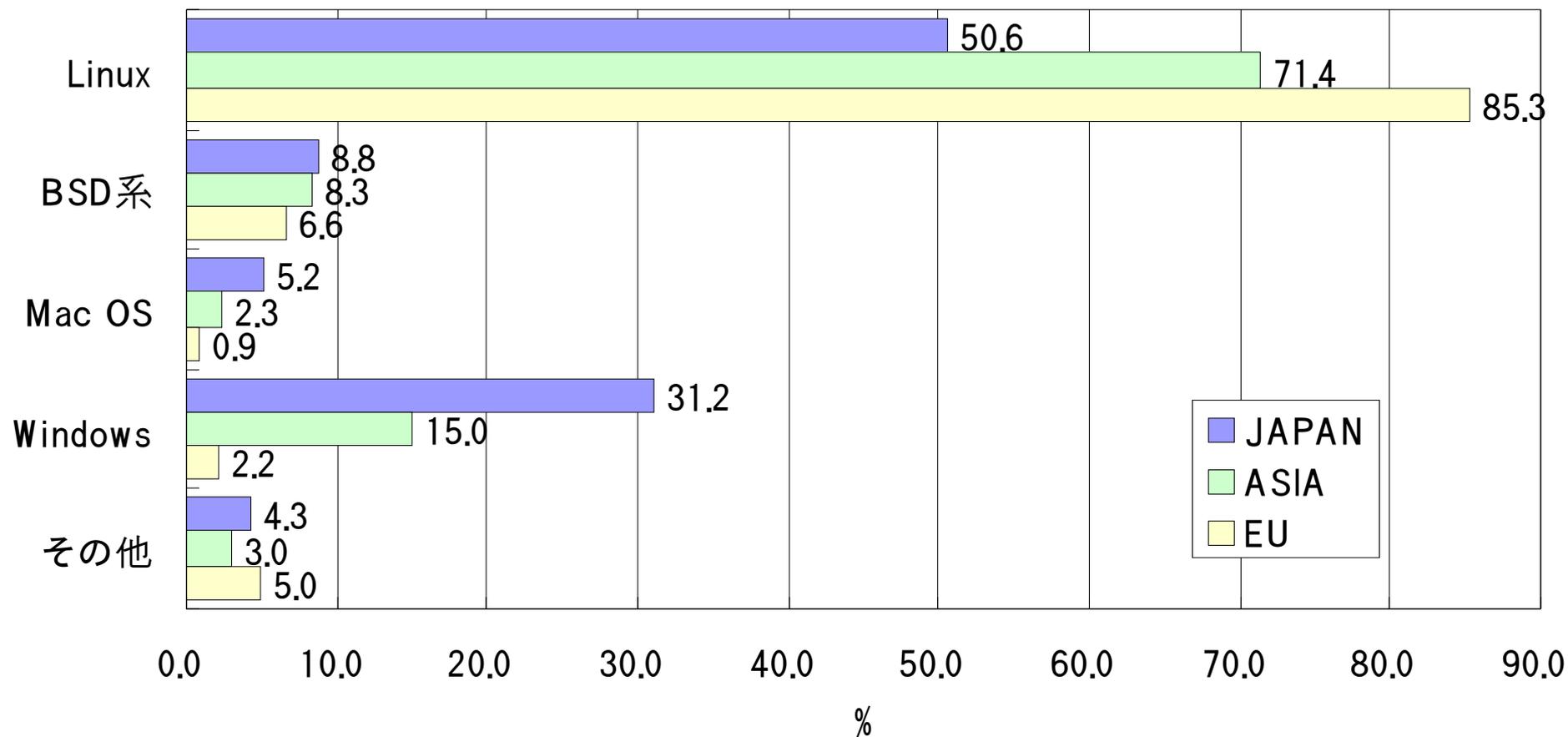
● ライセンス

- 意識しない人は少数（約10%）
- GPL 互換ライセンスが特にアジアで人気
 - 利益の分配や技術の共有を求めている



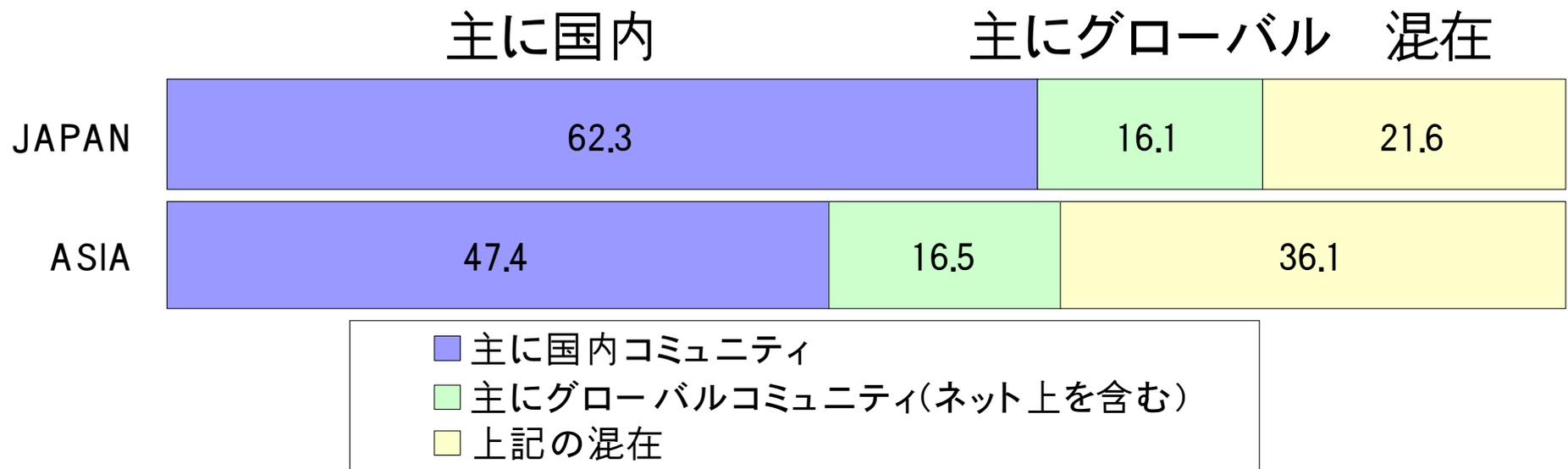
● 開発環境

- Linux が中心
- 日本・アジアは Windows 上での開発も多い



- 活動拠点と英語力

- 日本よりアジアの方がグローバルに活躍
- 4割の参加者がグローバルに活躍する活動はない



● 活動拠点と英語力

● 英語力がアジアの方が高い？

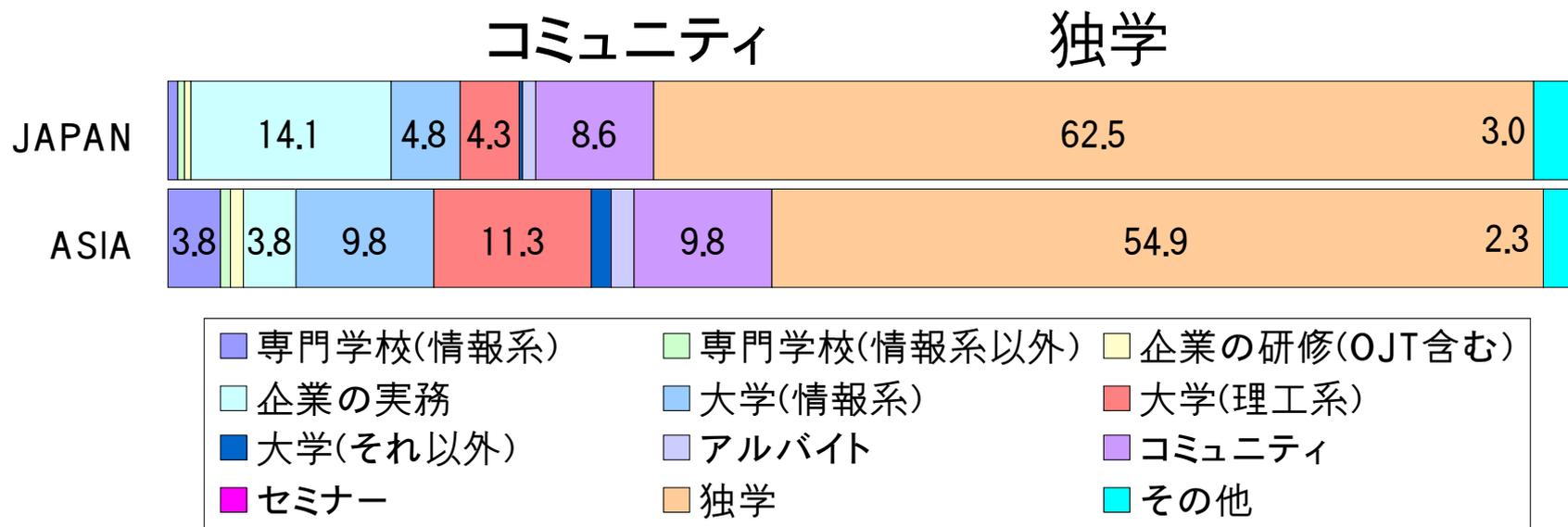
- アジアはリーダー的立場の人が回答した可能性
- アジア各国内コミュニティは未発達

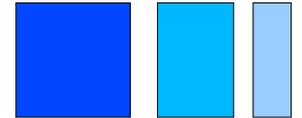


- 流暢な会話が可能、作文も辞書無しでOK
- 英語のMLに投稿して意見交換できる、会話は日常会話程度なら
- 英語の文章を読むのは問題ないが、作文と会話は苦手
- MLやNews、WWWの技術英語なら、なんとか読むことはできる
- 英語はできない

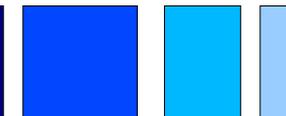
● 学習

- 大多数は独学 or コミュニティ経由
- 体系的な学習法がない



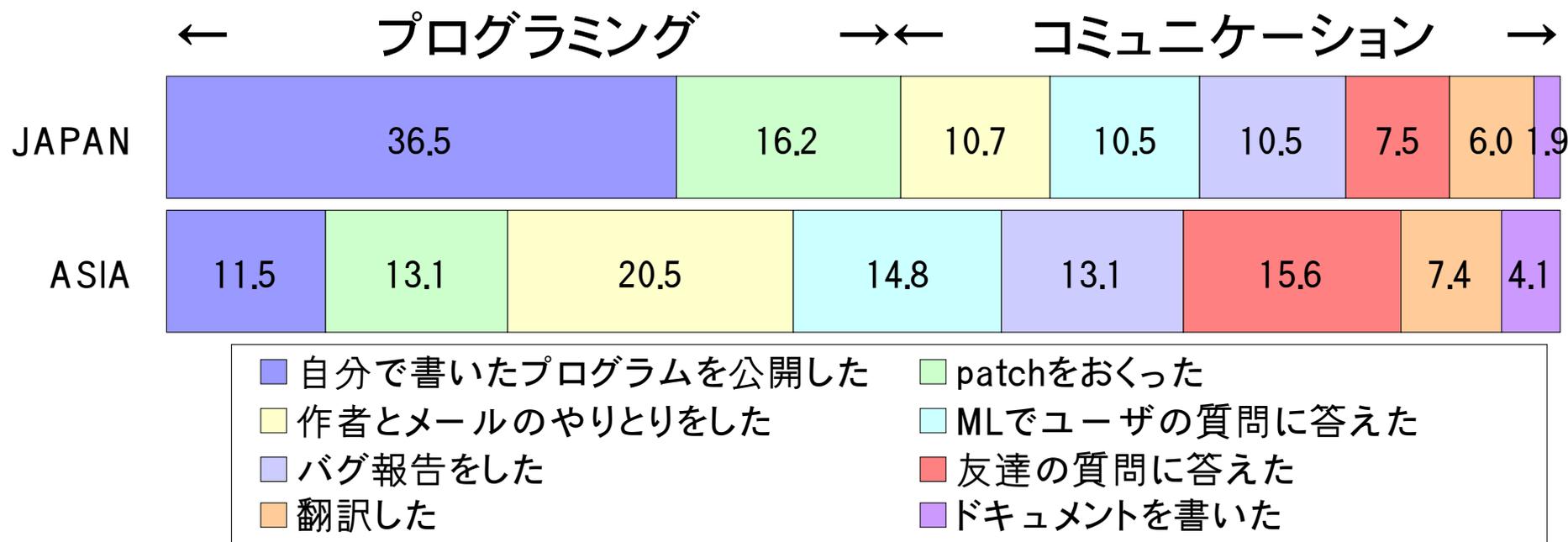


- 開発の動機・期待とともに4調査共通で
 - 知識・スキルの共有／獲得が中心
 - 名声／収入の獲得は重要ではない
- 日本の開発動機は、
 - 知識の共有は他地域ほど熱心ではない
 - プロプラエタリの善悪・限界や
 - 新しい共同形態への参加も少ない
- EUはそれらに興味を持つ
- アジアは中間



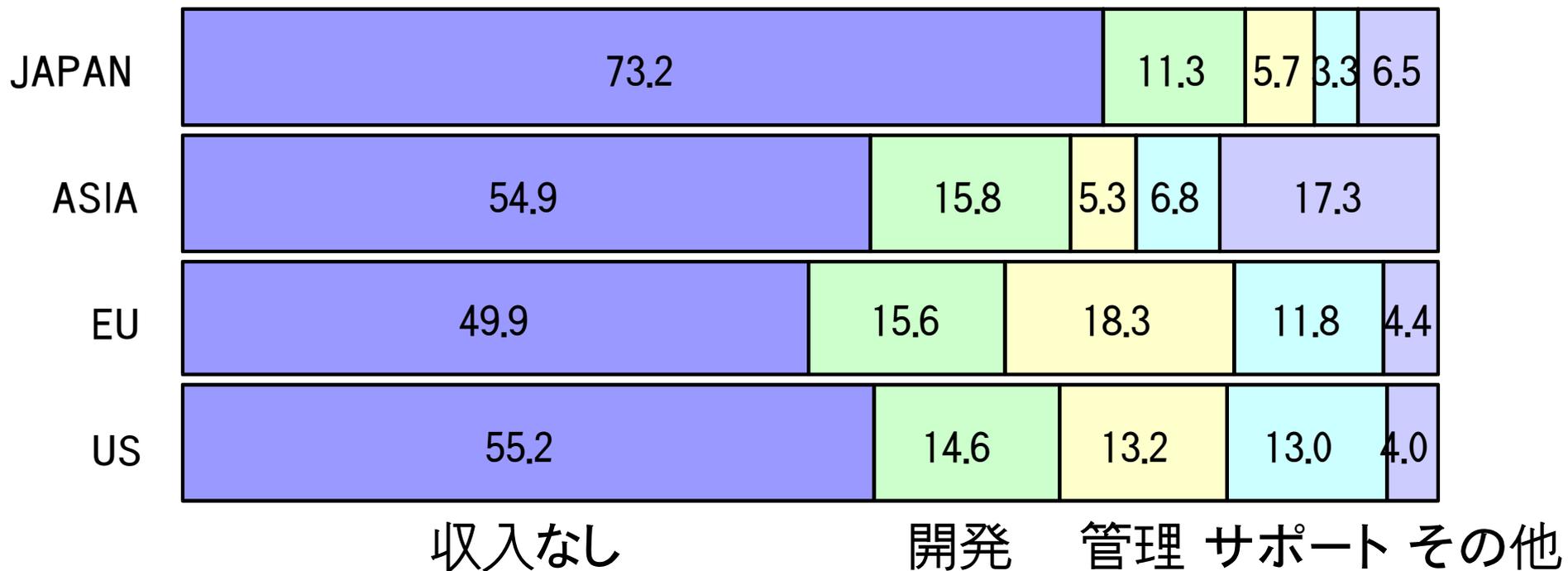
● 開発のきっかけ

- 日本：プログラミング / コミュニケーション半々
- アジア：コミュニケーション中心
- 多様な関わり方がある



- OSS/FS に関連した収入源

- 日本は最も収入のある人が少ない
- 欧米はシステム管理・サポートに対する支援が多い
- 今後日本・アジアでも伸びる可能性



- 会社（学校）の認知
 - 日本もアジアも会社側の認知度は低い
 - 多くの開発者は認めてほしいと願う
 - コミュニティや政府・自治体が啓発すべき
 - アジアの方がその気持ちは強い
 - 開発者の側の意識も変える必要がある

		FLOSS-JP	FLOSS-ASIA
現状	会社は関わりを知らない	40.8%	33.8%
	会社は関わりを知っている	34.7%	39.1%
	会社に任命された	11.1%	17.3%
希望	関わりを認めてほしい	29.4%	32.3%
	対価を認めてほしい	24.2%	23.3%
	仕事に任命してほしい	10.8%	19.5%
	知らないままでもいい	11.7%	6.8%

- FLOSS-EU/US/JP/ASIA の 4 調査結果を比較し、各地域の特徴を明らかにした。
- 日本やアジアにおける OSS/FS 開発者の大規模な実態調査や、開発者の地域性を明らかにする試みは初めてのことであり、調査の意義は大きい。
- 明らかになった地域差は、各地域の文化・慣習や経済発展状態などが影響していると考えられる。
- FLOSS-JP/ASIA 調査は経済産業省の「創造企業促進型人材育成システム開発事業（IT 分野）」の委託を受け（株）三菱総合研究所が実施したものです。



ご回答、広報にご協力頂いた OSS/FS 開発者の
皆様に本当に感謝いたします。

FLOSS-JP/ASIA に関するより詳しい情報は、

「オープンソースと政府」

<http://oss.mri.co.jp>

をご参考にしてください。